

令和7産 美里地区の大豆情報

第2号 令和7年6月30日

宮城県美里農業改良普及センター

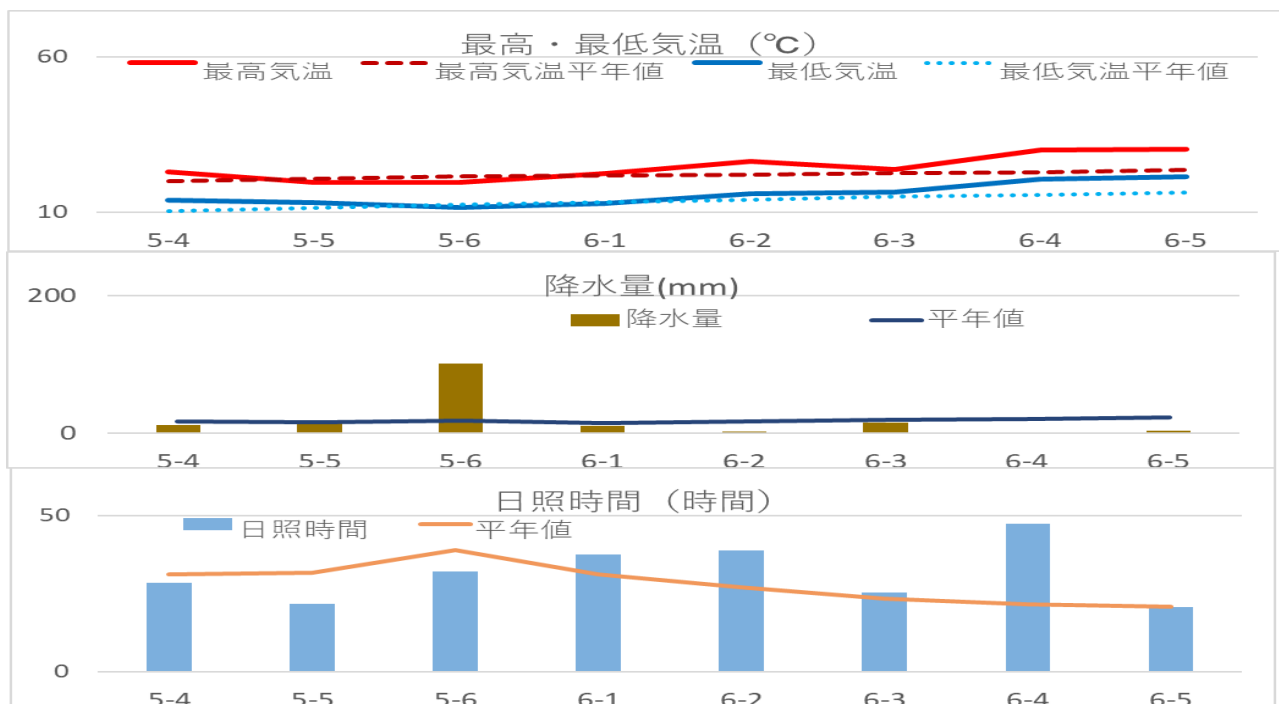
TEL:0229-32-3115

FAX:0229-32-2225

<https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



1 気象経過及び生育状況（鹿島台アメダスより）



5月下旬の気温はやや低めでしたが、6月は平年を上回り特に下旬は高温傾向で推移しました。降水量は管内では5月31日に100mmを超える大雨となりましたが、6月中は平年並みからやや少なく、日照時間は概ね平年並みでしたが、6月第4半旬は平年を大幅に上回る状況となりました。

2 現在の大豆生育状況

【標播】

- ・5月第6半旬以前に播種したほ場では出芽は概ね良好で、早いものは本葉も展開しています。

【麦後晩播】

- ・現在はまだ播種作業は行われていませんが、麦類の収穫作業に合わせ今後本格化するものとみられます。

3 今後の管理

(1) 雑草防除 ～雑草対策の第一は大豆の生育を揃えること～

雑草対策は播種前のほ場管理から始まります。碎土率を高め土壌処理剤の効果を高めるとともに、出芽が一斉となることで生育ステージが揃います。これにより薬剤防除と耕種的防除（中耕培土）等が適期に実施でき、除草効果を高めることが出来ます。

【管内の主な雑草】

写真出典：みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針



アメリカセンダングサ
出芽期間が長い。種子は湛水状態でも3年は生存。



オオイヌタデ
葉の中央部分に暗色斑紋。大型化し収穫作業に支障をきたす。



ホソアオゲイトウ
出芽期間が長い。1株で数万粒の種子を生産。

【一般的な防除体系】

大豆：	種子	2～3葉期	6～7葉期	生育期
管理：	播種	中耕培土①	中耕培土②	
除草剤：	土壌処理剤	← 茎葉処理剤 →		
		← 畦間・株間処理剤（登録に合わせ） →		

※土壌処理剤の効果はほ場条件等でバラつく

※茎葉処理剤は何を使うか、雑草の種類や処理時期で判断（散布時期に注意）
（アサガオ類などの難防除雑草は大豆2葉期頃から防除）

【広葉対象茎葉処理剤による草種ごとの対策】

散布時期が遅くなるほど大豆の株間の雑草に薬液が付着し難くなるとともに、葉齢の進んだ雑草の割合が多くなります。雑草の草種に合わせ、大豆3葉期を目安に防除を実施しましょう。また、大豆への薬害や雑草への効果を勘案しながら、各農薬の適用上の使用時期を守って散布しましょう。

農薬名	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	成分を含む農薬の総使用期限
パワーガイザー液剤	雑草茎葉散布 又は全面散布	出芽直前～3葉期まで（雑草発生始期～2葉期）	1回	2回以内（但し、畦間処理は1回以内）
	畦間雑草茎葉散布	生育期（雑草発生揃期～2葉期）（但し、収穫30日前まで）		
大豆バサグラン液剤	雑草茎葉散布 又は全面散布	だいたいの2葉期～開花前（雑草の生育初期～6葉期）（但し、収穫45日前まで）	1回	2回以内（但し、畦間処理は1回以内）
	畦間雑草茎葉散布	だいたいの生育期（雑草の生育初期～6葉期）（但し、収穫45日前まで）		

【主な難防除雑草】

① 帰化アサガオ類

マメアサガオ 主な分布：関東以西 特徴：晩生、葉は紫色をおびやすい。種子の形はややいびつ。	 広くハの字型に開く	 ハート型で葉の縁が紫色	 直径2cm、白色まれにピンク色
ホシアサガオ 主な分布：関東以西 特徴：晩生、花が数個かたままって咲く。種子の表面は平滑。	 狭くハの字型に開く	 ハート型でほぼ無毛	 直径2cm、ピンク色、花柄が長く、葉の上に飛び出て咲く

② オオオナモミ



③ イヌホオズキ類



【難防除雑草対策のポイント】

難防除雑草は種子の生産が多く種子の寿命が長いことが多く、また、出芽期間が長く土壌処理剤や茎葉処理剤（非選択性を除く）による効果が小さいです。したがって、侵入初期の対策や拡散させない対策が重要となります。

- ① 侵入を確認したら侵入初期に手取りを含め徹底的に防除する。
- ② 難防除雑草発生ほ場での機械作業は最後に行い、作業後は機械を丁寧に清掃する。
- ③ 除草剤は大豆2～3葉期（雑草が小さいうちに）を目安に、早めに防除を実施する。
- ④ 残草が発生した場合は結実前に手取り除草を行い、種子をほ場に落とさない。

(2) 湿害対策 ～排水状況を確認し、局地的な大雨等に備えましょう～

6月14日に梅雨入りし、降雨日が増えて来ます。また、近年は局地的な大雨により短時間雨量が多くなり、ほ場では停滞水となることが多くなっています。雨が降る前に湿害対策をしっかりとることが重要となります。

- ① 播種前に施工した明渠が排水路につながっていることを確認する。
- ② 排水路に雑草や土砂がたまっていないことを確認する。

(3) 中耕・培土 大豆の生育にとって重要な作業です。開花前までに実施しましょう。

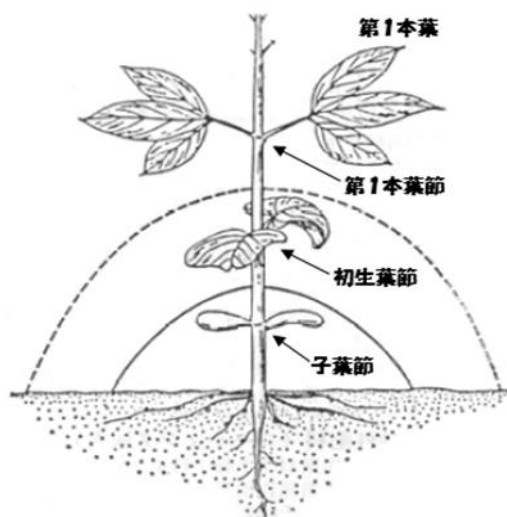


図 中耕培土の目安

普通栽培

- 1 回目：本葉 2～3 葉期に子葉節が隠れる高さまで
- 2 回目：6～7 葉期に初生葉が隠れる高さまで

晩播栽培（麦後）

本葉 5～6 葉期に子葉節が隠れる程度の高さまで

※培土した節から「不定根」が発生し、生育促進、倒伏防止、増収の効果がある他、培土そのものでも、土壌通気性・排水性の改善、除草等の効果があります。

※遅い時期の中耕・培土は、主茎や分枝の損傷、断根により生育に支障を来すため、開花の 10 日前までには終わるようにしましょう。

(4) 追肥 「開花期～幼莢期」の窒素養分吸収を補いましょう

地力の低いほ場では根粒菌の活動を抑制しにくい被覆肥料（40 日タイプ、窒素成分で 5kg/10a）を最終培土期（普通播栽培は 7 月中旬（本葉 6～7 葉期）、晩播栽培は 8 月上旬（本葉 5～6 葉期））に追肥することを検討しましょう。

※追肥は乾物生産が旺盛となる「開花期～幼莢期」の窒素供給を目的として行います。

(5) 今後拡大が懸念されるダイズシストセンチュウ

ダイズシストセンチュウは幼虫が大豆の根に寄生し、養分を吸い取ります。このため大豆は生育不良となり、粒が小さくなり収量が低下します。シストセンチュウの侵入経路は人や機械に付着した土が原因となります。防除が難しいことから、まずは発生状況を確認し、広がらないようにすることが大切です。

農作業中の熱中症を予防しましょう！！

○暑さを避ける

～高温時の作業は極力避け、日陰や風通しの良い場所で作業～

○こまめな休息と水分補給

～のどの渴きを感じる前に水分、塩分補給～

○単独作業は避ける

～複数名で作業を行う。時間を決め連絡を取り合う～

○熱中症対策アイテムの活用

～帽子や吸湿速乾性衣類の着用。空調服や送風機の活用～

◇◇◇農薬危害防止運動実施中（6 月 1 日～8 月 31 日）◇◇◇